

鹿児島中央看護専門学校3年課程看護科 令和7年度学校自己点検・自己評価結果

(4 : とても良い 3 : 概ね良い 2 : 不十分 1 : 全くできていない)

評価項目		令和7年度
大項目	中項目	
教育理念 ・目標	1_教育理念・教育目的・卒業生像に一貫性があるか	3.54
	2_教育理念・教育目的は、学校における看護基礎教育の特徴を明確にしているか	
	3_社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想があるか	
	4_教育理念・教育目的・卒業生像・学校の特徴等は、学生・保護者・関係施設等に周知されているか	
学校運営	5_教育目的等に沿った運営方針が策定されているか	3.33
	6_運営方針に沿った事業計画が立案されているか	
	7_運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化され、有効に機能しているか	
	8_人事、給与に関する制度は、整備されているか	
	9_教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	
	10_関連施設や地域社会等のニーズに対応する体制が整備されているか	
	11_教育活動に関する情報公開が適切になされているか	
	12_情報システム化等による業務の効率化が図られているか	
教育活動	13_教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3.43
	14_教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	
	15_学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	
	16_実践的な看護教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発等が実施されているか	
	17_実践的な看護教育演習・臨地実習等が体系的に位置づけられているか	
	18_授業評価の実施・評価体制はあるか	
	19_成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	
	20_カリキュラムの見直しは定期的に行っているか	
	21_臨地実習の計画・実習指導の見直しは定期的に行っているか	
	22_年度初めにカリキュラムガイダンスを行っているか	
	23_学生便覧は内容構成は工夫して作成されているか	
	24_学生便覧は学生が活用しているか	
	25_シラバスが作成され、学生に説明しているか	
	26_科目に合わせて、専門性を発揮できるように担当教員専任・非常勤を配置しているか	
	27_教員の講義時間の配分は経験年数・授業内容を考慮したものになっているか	
28_資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか		
29_看護基礎教育の授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか		
30_看護基礎教育に適した教員専任・非常勤を含むを確保するためのマネジメントが行われているか		
31_教職員の指導力育成や能力開発などのための取り組み等が行われているか		
学修成果	32_国家試験合格率の向上が図られているか	3.29
	33_退学率・休学率の低減への取り組みをしているか	
	34_卒業生の活躍及び評価を把握しているか	
	35_卒業生の活動状況を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	

評価項目		
大項目	中項目	令和7年度
学生支援	36_進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3.22
	37_学生相談に関する体制は整備されているか	
	38_学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	
	39_学生の健康管理を担う組織体制はあるか	
	40_課外活動に対する支援体制は整備されているか	
	41_学生の学習環境への支援は行われているか	
	42_保護者と適切に連携しているか	
43_卒業生への支援体制はあるか		
教育環境	44_施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3.36
	45_防災に対する体制は整備されているか	
	46_臨地実習施設は学生の看護実践の学習を支援する体制を整えているか	
	47_臨地実習指導における学生の学びを保障するために、臨地実習指導者の役割を明確にしているか	
	48_臨地実習指導における学生の学びを保障するために、教員の役割を明確にしているか	
49_臨地実習指導者と教員の協働体制を整えているか		
学生の受け入れ	50_入学選考試験の種類をわかりやすく明示しているか	3.46
	51_入学者選抜の方法は明確になっているか	
	52_学生募集の広報には志願者の知りたい情報を網羅しているか。	
	53_志願者・合格者・入学者などの推移とその評価がなされているか	
54_選抜方法と学生の状況について検討しているか		
財務	55_教職員は学校がどのような財政基盤によって成り立っているかを理解しているか	3.18
	56_教職員はそれぞれの観点から財政について考え行動しているか	
法令等の遵守	57_法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3.57
	58_個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	
	59_自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	
	60_自己評価結果を公開しているか	
社会貢献・地域貢献	61_学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3.36
	62_学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	
	63_地域ニーズに適正かつ継続的に貢献しているか	
国際交流	64_国際的視野を広げるための授業科目を設定しているか	3.24
	65_国際的視野を広げるための自己学習に適した環境を整えているか	
	66_海外からの帰国学生や留学生の受け入れ体制を整えているか	
研究・研修活動	67_教職員は研究活動に取り組んでいるか	3.39
	68_教職員の研究活動を支援する体制があるか	
	69_教職員は年一回以上研修に参加しているか	
	70_研修で学んだことを教育に還元し活用しているか	
平均		3.38

各カテゴリー評価

(1) 教育理念・目標 評価(3.54) R6~0.16上昇 適切

・本校では、当法人の理念である「奨学と慈愛」を基に、慈愛の心を基盤とした8つのディプロマポリシーに向かって教育目標を設定し教育課程を編成している。令和4年度から開始した新カリキュラムを終了した学生が卒業を迎え、今年度は4年目となった。評価の結果から、一貫性をもった看護基礎教育の基盤は整っていると考える。本校の理念や目標については、さまざまな機会を通して学生・保護者等へ伝え、理解も得られている。また前述したように、学生確保のための学校周知に向けた活動にも今年度は特に力を入れたことから、他の関連施設や将来看護師を目指す生徒たち、社会人に向けての周知活動も評価につながったと考える。

・今後も学生確保の困難が予想される中で、本校の長い歴史のなかで受け継がれている教育理念、特徴、専門学校としての魅力を発信し続けることが必要である。

(2) 学校運営 評価(3.33) R6~0.05上昇 概ね適切

・学校運営については、本校は公益財団法人慈愛会の中の一施設として健全に運営されている。事業計画は、法人の方針、学校関係者評価会で頂く委員の皆様の意見や学校事業計画のPDCAに基づき、計画を立て展開している。また進捗を職員会議で報告し共有している。

・人事、給与に関する制度は、昨年度から行われている改定に理解不足や不安を感じている職員もいる。しかし、ラダー取得後の手当に関しては、本校の強みである。教員のモチベーション向上につなげるためにも、ラダーの取得を支援していくことが必要である。

・関連施設や地域社会等のニーズに対応する体制については、本年度は地域向け教育セミナーの開催を行い、教育機関のみならず実習指導を担っている病院・施設の管理者や指導者に向けて学びの場の提供ができた。その他、看護協会の研修参加や教員の派遣も行っている。

・情報システム化による業務の効率化については、教務事務との連携による教員の事務的業務はかなり委譲でき、効率化ははかれている。しかし、学生の出席管理、成績管理、会議の議事録作成などについてはもう少しシステム化がはかれるとよい。令和8年度は学事システムの変更が計画されているため、業務の効率化をさらに進めていく。

(3) 教育活動 評価(3.43) R6から0.02低下 概ね適切

・講義、実習ともに、教育内容については毎年見直しを重ねており、評価も実施できている。

・各学年、カリキュラムガイダンスを実施し、ディプロマポリシー、学年目標に対する意識づけを行っている。

・カリキュラム評価については、ディプロマポリシーを含めたカリキュラム評価の体制構築が必要であり、次年度はカリキュラム検討委員会で検討を重ねていく。

・教育活動の工夫においては、令和7年度も実践的な教育として実習でのポートフォリオ学習、災害看護演習、模擬患者を活用した統合看護技術Ⅰ、臨床判断Ⅱ、フィジカルアセスメントⅡではシミュレーション学習を行っている。また本年度は統合看護技術Ⅱにおいて、初めてOSCEを取り入れた。学生の看護実践能力の向上について、次年度に繋がる課題を見出している。

・教職員の指導力向上については、研究授業を2回実施している。リフレクションを通して、授業方法の改善、工夫につなげることができている。また、教員会議で各教員の担当講義のねらいや授業方法、演習の工夫点などの学習会を開催したり、各種研修での学びを共有したりすることで、教育の質向上につなげている。

・教員の講義時間の配分等については、やや偏りを感じている。また、近年、支援が必要な学生が多くなっており、学年担当の負担が大きくなっている。次年度は、実習指導時間の管理を含め、教員個々の負担軽減にも努める。

(4)学修成果 評価(3.29) R6から0.09上昇 概ね適切

・令和6年度より評価は上昇しているが、国家試験の合格率に関しては課題が大きい。昨年度の国家試験合格率は97.6%であり、3年連続全員合格は叶わなかった。年々、低学力者への支援が課題となっており、学力面のみならずメンタル支援も必要な状況である。入学時からの支援の在り方を再度見直していく必要がある。また、不合格であった既卒生の支援は3年生担当を中心に行っているが、学習習慣をつけることにも困難があり、支援が難しい状況である。

・昨年度の休学者2名は復学し、2年生として学習を進めることができています。しかし休学後一度復学した学生1名は、生活の乱れや学習意欲の低下がみられ、現在も休学中である。また、今年度1名が退学した。基礎看護学実習Ⅱの履修途中での決心であったが、学生からのサインを見逃さないこと、ストレスの大きい臨地実習では特に注意をしていくことが必要である。

・各学年で修得すべき単位を取得できない学生も増えてきている。主体的に学習計画を立て目標達成に向けて取り組めるように学年担当を中心に働きかけているが、学生個々の要因があり支援も難しい状況がある。保護者面談を行い、家庭の協力もお願いしている状況がある。成人学習者であり、保護者への連絡のタイミングなど判断に迷うことも多いが、できるだけ早めに問題解決できるようにしていく必要がある。

・昨年度は初めて、過去3年間に外部施設に就職した卒業生の状況を把握するためのアンケート調査を行ったが、今年度は令和6年度卒業生の就職先すべてに対して調査を行った。評価の高かった項目(4段階評価のうち3.0以上)は、「看護師としての品行に気を付け、自分から挨拶を心がけ身だしなみを整えている」3.39、「相手を思いやり相手の立場になって関わることができる」3.36、「看護の対象者の尊厳や人権を守り擁護的立場で行動できる」3.29、「チーム内の報告連絡相談ができて」3.07であった。低かった項目として、「看護の対象者の思いや考えを多職種に代弁できる」2.54、「社会情勢や看護の動向に関心を持ち主体的に学習し自己の課題に取り組む」2.46であった。各施設の所属長からのコメントからも、本校の教育が大切にしてきた「看護の心」や看護師の基本となる姿勢は身につけていることがわかった。多職種との連携をはじめ看護実践力については、1年目であることから臨床においてまだ力が弱い部分であると考えられる。主体的に学習する力にも課題があることも示唆されたため、看護基礎教育の場で力をつけていくことが今後の課題である。

(5)学生支援 評価(3.22) R6から変化なし 概ね適切

・進路・就職に関する支援については、今年度は支援担当教員をおくことができなかったが、担任を中心に就職に関する広報、面談指導等対応した。

・学生の経済的支援では、慈愛会奨学金制度を含め、社会人向け専門実践教育訓練給付金制度の活用、日本学生支援機構等の情報を定期的に提供し支援した。さらに、放送大学で学ぶ学生向けに節英会奨学金もあり、多くの学生の支援に繋げている。

・卒業生への支援としては、卒後1年目に対してサポートキャンパスを実施した。また、近年、学校に相談にくる卒業生が多く、メンタル支援を中心にサポートを行いつつ、関連施設とは必要時情報共有を行い、連携による支援を行った。

・放送大学との併修制度は導入4年目となった。全学年で25名が併修制度で学んでおり学生の看護学士や学士取得支援に繋げている。また、今年は放送大学を卒業した方に対してお祝いの会を開くことができた。今後も、在学中の支援を継続しながら、卒業生に向けての支援を就職先とも連携をはかり進めていく。

・学生の学習環境への支援や保護者との連携については課題がある。入学してくる学生の基礎学力低下の問題や生活面や精神面に課題がある学生も多くなっている。さらに発達障害や発達障害傾向にある学生に対しての支援の難しさもあり、教員の負担感が増えている。一人の教員に負担がかかることがないよう、教員全員での情報共有や支援の在り方を検討しながら学生の特性をふまえた支援を行っていく。

(6)教育環境 評価(3.36) R6から0.08上昇 概ね適切

・今年度は防災マニュアルを作成し、地震を想定した教職員の訓練を実施した。災害時の対応について、まずはしくみづくりができたため、実際に行動できるように訓練の実施や学生への指導を行っていく。

・校舎の老朽化の問題は急務であり、今年度はまず安全確保のための点検をはじめ、学生の教室の移動、外壁の改修工事の着工など積極的に進めた。また、トイレの数を増やしてほしいとの学生の声を受けて、洋式トイレへの改修工事を行う予定である。今後も学生が安全に、少しでも快適な学校生活を送れるような環境を整えていけるよう努めていく。

・図書室の活用については校舎が離れていることもあり、貸出が少ない状況が続いている。活用頻度の高い書籍や新刊図書を第1校舎に置くなど今後も工夫をしていく。

・シミュレーターの積極的な活用については課題であったが、令和7年度は教育DX委員会を中心に教育環境の向上を目指した。教員間での学習会やナーシング アン シミュレーターへの事例データ移行などをはじめ、教員が活用できるような土台はできたため、来年度は各教員が講義や演習等で活用していく。

(7)学生の受入れ 評価(3.46) R6から0.05上昇 概ね適切

・昨年度と比較し上昇した。入学選考試験に関する規程については、令和7年度から外国人留学生の受け入れ開始に伴い改正を行っている。今年度は、さらに少子化、大学化の流れが進む中で、受験者数が低下している状況を受け、社会人を含め入学の機会を増やせるように入学試験の在り方について話し合いを重ね、一部改正を行った。今後も、本校のアドミッションポリシーに掲げる学生の確保ができるよう、入試のあり方について検討を重ねていく。

・SNSを活用した情報発信は業者にも入ってもらい、インスタグラムやホームページはより見やすいものへと改善することができた。また、学校周知活動として学校訪問の継続、中学校への出前授業の実施、高校生への就職ガイダンス、社会人獲得にむけた病院訪問等にも今年度はとくに力を入れた。その結果、学校の認知度を上げることができたと考えられる。

(8)財務 評価(3.18) R6から0.05下降 概ね適切

・教職員は学校の財務状況や財政基盤について会議等で共有しているが、財政について考えて行動することはまだ十分とは言えないようである。学生確保が困難となる中で、財政的に厳しい状況は続くため、今後も教職員が組織の一員としてマネジメントの基本である「ヒト」「モノ」「カネ」を意識して行動できるよう、情報の共有のみならず具体的な行動指針も共通認識していく必要がある。

(9)法令の遵守 評価(3.57) R6から低下 概ね適切

・専修学校設置基準や看護師養成所等の運営に関するガイドラインを遵守し学校を運営している。

・今回は鹿児島県の学事法制課の監査を受けた。指導を受けた学生数の超過(現1年生)や内科健診の時期(入学後3か月以内)については改善できる見通しである。

(10)地域貢献・社会貢献 評価(3.36) R6から0.05上昇 概ね適切

・昨年度からさらに評価が上昇した。今年度は、3年生の学内学習期間に、社会福祉協議会でのボランティア活動を学生主体で計画し実施した。全員参加としたが、高齢者だけでなく子どもたちを対象としたボランティア活動にも多く参加していた。

・1～2年生では地域清掃ボランティアに取り組み、学校周辺の清掃を行った。その他、かごしまマラソンでの協力など、1～2年生もさまざまなボランティア活動に参加できている。

(11)国際交流 評価(3.24) R6から変化なし 概ね適切

・文化人類学、英語および看護管理・国際看護など国際的な視野を広げるための科目を設定し、学生は異文化についてだけでなく国際化における人々の暮らしや看護の役割についても学んでいる。

・本年度から外国人留学生の受け入れを開始し、1名が入学した。クラスメイトは国際交流を育む機会となっており、双方にとって価値をもたらしている。また、担当の専任教員1名を配属し支援を行っているため、学生生活に順調に適應している。

・昨年度に比べて評価が横ばいであった理由としては、他の学年との交流はほとんどできなかったことも一因と考える。学年を越えた交流の機会を設けるなど、工夫が必要である。

(12)研究・研修活動 評価(3.39) R6から0.01上昇 概ね適切

・教員の研究活動への取り組み、研修参加や学びの教育への活用は上昇した。令和2年度から始めたチーム活動における看護研究チーム、研究授業チームの活動が定着している。本年度も教員による学習会の実施、研究授業の実施、看護研究においては1例「本校における学年交流技術演習の実践報告」慈愛会学会でポスター発表した。

・教員の研究活動を支援する体制については昨年より0.2低下し2.9であった。時間確保の困難や、支援の不足に対する意見が挙げられており、今後も継続的に研究活動を支えるための支援体制の確立がもう少し必要である。

